



平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 株式会社 梅の花

上場取引所 東

コード番号 7604

URL <http://www.umenohana.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 梅野 重俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経理部長

(氏名) 上村 正幸

TEL 0942-38-3440

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	8,015	1.3	254	11.4	235	78.0	139	311.3
25年9月期第1四半期	7,911	△2.2	228	36.1	132	△7.2	33	△71.3

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 142百万円 (266.9%) 25年9月期第1四半期 38百万円 (△66.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	18.97	15.99
25年9月期第1四半期	4.78	4.50

(注) 当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
26年9月期第1四半期	20,342		6,753		33.2		918.41	
25年9月期	19,002		6,648		35.0		904.05	

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 6,753百万円 25年9月期 6,648百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,681	0.9	359	△22.8	309	△11.1	226	38.9	30.77
通期	30,002	0.7	505	34.1	417	101.4	288	593.3	39.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期1Q	7,489,200 株	25年9月期	7,489,200 株
② 期末自己株式数	26年9月期1Q	135,504 株	25年9月期	135,468 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年9月期1Q	7,353,726 株	25年9月期1Q	7,097,300 株

(注)当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。
これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成26年2月10日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、海外景気の下振れリスクがあるものの、経済政策等の影響により、輸出や個人消費及び設備投資等持ち直しの動きが見られ景気が緩やかに回復しつつあると言われている中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「すばらしいおもてなしをする為に たくさんのお客様と会話をしコミュニケーションを図ります お客様の顔と名前を覚えます」を経営方針として、お客様に感極まるサービスを提供できるように取り組んでまいりました。

利益率向上策といたしまして、物流の見直しによるコスト削減や販売促進費の抑制、ロコミによる営業及び外回り営業の強化による売上拡大、さらに店内営業の強化としてお客様とコミュニケーションを図ることによりご来店頻度を高めることができるよう取り組んでおります。

出店につきましては、従来のスクラップアンドビルドに加え未出店エリアへの展開を視野に入れて情報収集を行い、今後の積極的な出店に繋げてまいります。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業4店舗出店及び1店舗閉店、テイクアウト事業2店舗出店により、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、264店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高80億15百万円（前年同期比101.3%）、営業利益2億54百万円（前年同期比111.4%）、経常利益2億35百万円（前年同期比178.0%）、四半期純利益1億39百万円（前年同期比411.3%）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

(外食事業)

外食事業におきましては、秋の感謝祭企画や忘新年会企画を実施するとともに、ご来店されたお客様への挨拶を徹底しお客さまの顔と名前を覚えコミュニケーションを図ることにより、お1人お1人に応じたきめ細かいサービスを提供することでご来店頻度の向上に努めました。また、おせちの販売につきましては、1段重から3段重までバリエーションを設けお客様の多様なニーズに対応いたしました。

経費の削減につきましては、人時生産性や接客指数等のコントロール、店内営業活動を強化することによって販売促進費を抑制しております。

出店及び閉店につきましては、梅の花は2店舗出店し70店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は、2店舗出店及び1店舗閉店し6店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は82店舗、売上高は49億75百万円（前年同期比99.4%）、セグメント利益3億円（前年同期比90.2%）となりました。

(テイクアウト事業)

古市庵テイクアウト店におきましては、秋の節分や七五三、いい夫婦の日、クリスマス等、イベントに合わせてお客様に新しい商品を提案し続けることとともに、他業種とのコラボ商品を開発するなど、購買意欲の向上を図りました。

梅の花テイクアウト店におきましては、添加物を控えるとともに、季節感溢れる商品開発に注力いたしました。また、お買い上げ頻度を向上させるために、弁当類の取扱品アイテム数を増やし、売上拡大を図りました。

経費の削減につきましては、人員配置や勤務シフトを見直すことで、サービス水準を落とすことなく人件費を削減し、利益率の向上に努めております。

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は出店及び閉店ともなく133店舗、梅の花テイクアウト店は1店舗出店し39店舗、その他店舗は1店舗出店し、10店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は182店舗、売上高は30億40百万円（前年同期比104.6%）、セグメント利益2億5百万円（前年同期比157.1%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ13億39百万円増加し、203億42百万円となりました。これは主に、季節要因により売掛金が5億34百万円増加、現金及び預金が3億1百万円増加、設備投資等により有形固定資産が2億83百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ12億34百万円増加し、135億88百万円となりました。これは主に、季節要因により買掛金及び未払金が7億70百万円、借入金の総額が3億80百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ1億5百万円増加し、67億53百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億2百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年11月14日の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,985,089	2,287,067
売掛金	1,243,290	1,777,805
商品及び製品	78,822	100,068
原材料及び貯蔵品	178,739	263,399
繰延税金資産	220,204	182,187
その他	497,143	591,674
貸倒引当金	△1,558	△1,558
流動資産合計	4,201,731	5,200,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,725,713	6,956,877
機械装置及び運搬具（純額）	204,276	195,877
土地	4,631,718	4,631,718
建設仮勘定	162,070	165,554
その他（純額）	535,314	592,708
有形固定資産合計	12,259,094	12,542,736
無形固定資産		
のれん	462,529	433,668
その他	71,453	68,136
無形固定資産合計	533,983	501,804
投資その他の資産		
投資有価証券	86,796	91,128
長期貸付金	183,681	183,619
前払年金費用	—	16,586
繰延税金資産	25,339	23,549
敷金及び保証金	1,675,940	1,743,917
その他	139,337	141,526
貸倒引当金	△103,023	△103,023
投資その他の資産合計	2,008,071	2,097,303
固定資産合計	14,801,149	15,141,845
資産合計	19,002,880	20,342,490

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	590,446	1,026,951
短期借入金	2,400,000	3,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,515,232	1,414,031
未払金	1,157,643	1,491,182
未払法人税等	48,750	19,800
賞与引当金	231,600	135,000
資産除去債務	—	16,530
ポイント引当金	166,989	166,803
その他	527,781	755,187
流動負債合計	6,638,443	8,225,485
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	2,259,675
長期借入金	2,609,732	2,291,440
退職給付引当金	83,200	65,768
資産除去債務	638,193	635,616
その他	125,492	110,770
固定負債合計	5,716,293	5,363,270
負債合計	12,354,736	13,588,756
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,500,166	3,500,166
利益剰余金	△742,311	△639,563
自己株式	△238,147	△238,218
株主資本合計	6,642,885	6,745,562
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,984	12,897
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
その他の包括利益累計額合計	5,258	8,171
純資産合計	6,648,143	6,753,733
負債純資産合計	19,002,880	20,342,490

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,911,573	8,015,590
売上原価	2,371,471	2,414,934
売上総利益	5,540,102	5,600,655
販売費及び一般管理費	5,312,040	5,346,491
営業利益	228,061	254,163
営業外収益		
受取利息	984	883
受取配当金	865	403
受取手数料	1,874	1,663
雑収入	5,854	9,354
営業外収益合計	9,578	12,304
営業外費用		
支払利息	24,486	16,484
株式交付費	34,651	—
社債発行費	32,111	—
雑損失	13,911	14,165
営業外費用合計	105,159	30,650
経常利益	132,480	235,817
特別損失		
固定資産除売却損	47,405	31,765
減損損失	1,455	—
特別損失合計	48,860	31,765
税金等調整前四半期純利益	83,619	204,052
法人税、住民税及び事業税	6,981	23,696
法人税等調整額	42,721	40,839
法人税等合計	49,702	64,535
少数株主損益調整前四半期純利益	33,916	139,516
四半期純利益	33,916	139,516

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	33,916	139,516
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,902	2,913
その他の包括利益合計	4,902	2,913
四半期包括利益	38,819	142,430
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,819	142,430
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年11月5日開催の取締役会において、平成25年12月20日開催の定時株主総会に、資本準備金の額の減少を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

1. 資本準備金の額の減少の目的

今後の財務戦略上の柔軟性および機動性を確保するため、資本準備金の額を減少いたしました。

2. 資本準備金の額の減少の要領

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,500,166千円のうち1,500,000千円を減少させ、その他資本剰余金に減少額の全額を振り替えました。

減少後の資本準備金の額は、2,000,166千円となりました。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
	外食事業	テイクアウト事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,004,121	2,907,452	7,911,573	—	7,911,573
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,291	15,038	17,329	△17,329	—
計	5,006,412	2,922,490	7,928,903	△17,329	7,911,573
セグメント利益	333,140	130,634	463,775	△235,713	228,061

(注)1 セグメント利益の調整額△235,713千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
	外食事業	テイクアウト事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,975,215	3,040,375	8,015,590	—	8,015,590
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,192	16,632	18,825	△18,825	—
計	4,977,407	3,057,007	8,034,415	△18,825	8,015,590
セグメント利益	300,561	205,165	505,726	△251,562	254,163

(注)1 セグメント利益の調整額△251,562千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント利益の測定方法の変更)

当第1四半期連結累計期間より経営管理手法の変更に伴い、各事業セグメントに対する費用の配賦基準の見直しを行っております。これは、セグメント別損益の実態をより正確に表示するためであります。なお、前第1四半期連結累計期間の報告セグメントは、見直後の配賦基準に基づき作成したものを開示しております。